

# 2019年初夏のサンマの資源量と分布状況



北光丸（北海道区水産研究所）  
902トン



北鳳丸（北海道実習船管理局）  
664トン

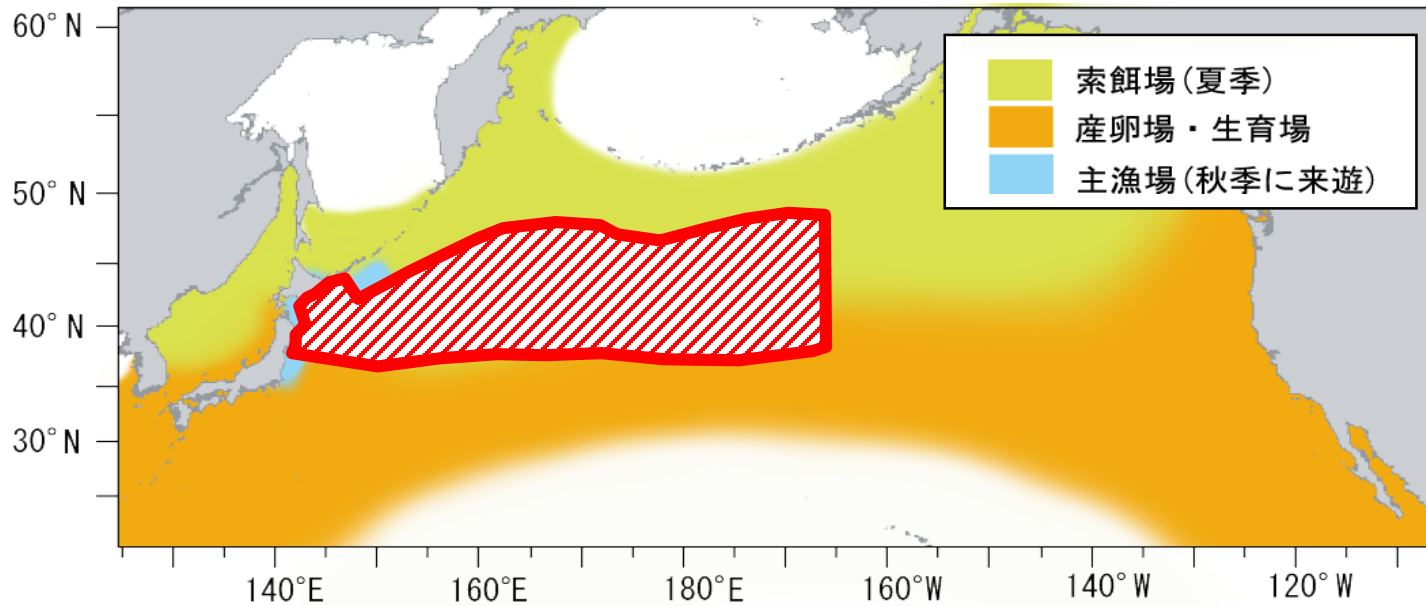
水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

富士泰期

# サンマ資源量直接推定調査

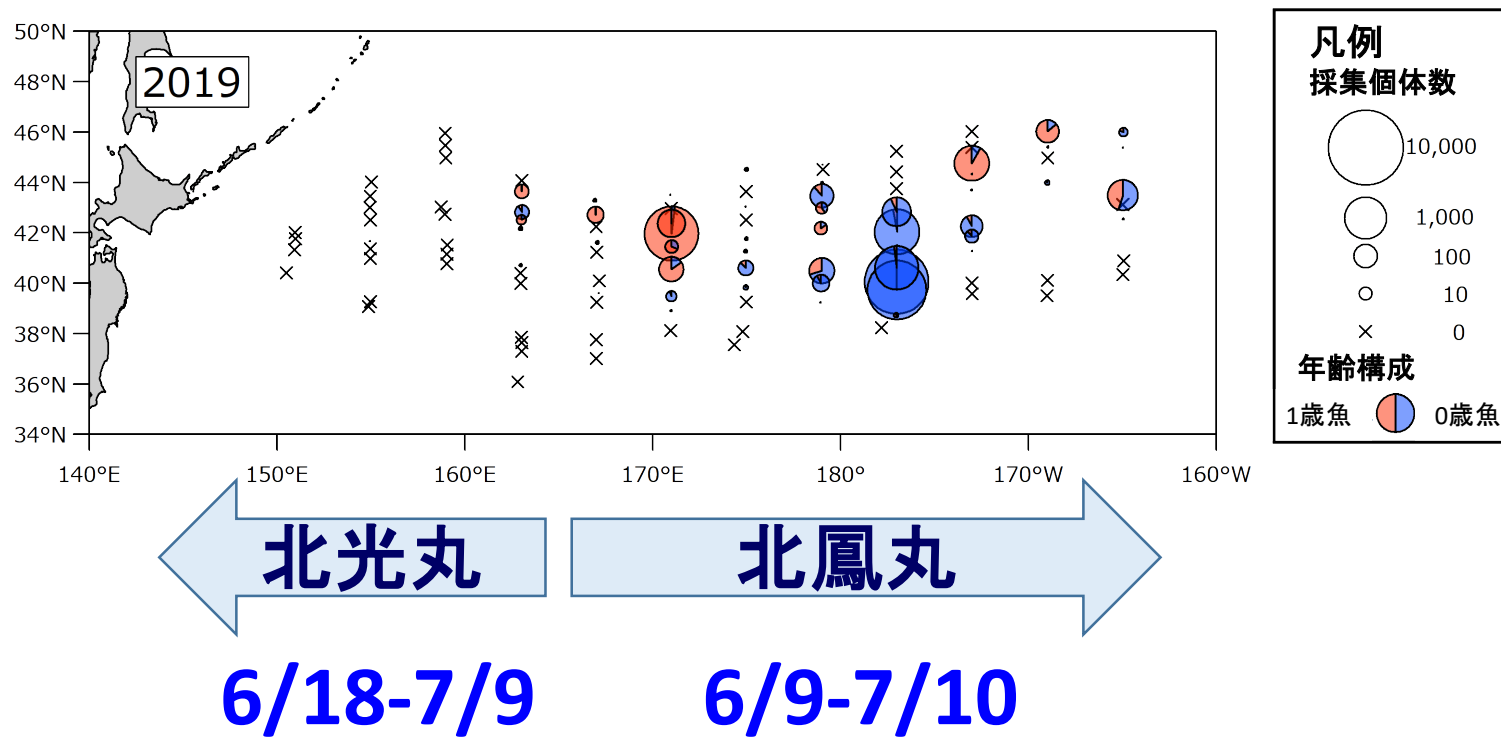
## 資源量、尾数の推定(表層トロール)

➤2003年から毎年6～7月に実施。





# 今年の調査結果



## 令和元年度 サンマ長期漁海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人 水産研究・教育機構  
東北区水産研究所がとりまとめた結果 －

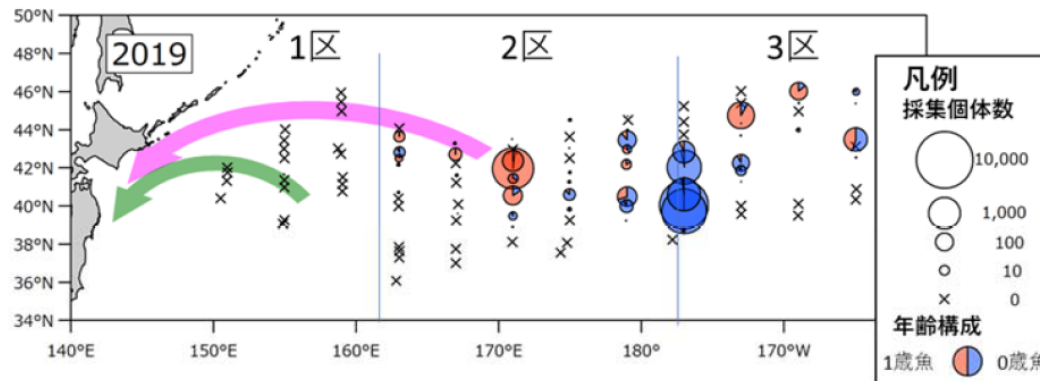
### 今後の見通し（令和元年8月～12月）のポイント

#### 漁況

- ・ 来遊量は昨年を下回る。
- ・ 漁場への魚群の来遊量が増加するのは9月下旬以降で、主漁場は親潮第2分枝沿いとなる。
- ・ 1歳魚の割合は昨年よりも低く、1歳魚の平均体重も昨年を下回る。

#### 海況

- ・ 親潮第2分枝の南限はかなり北偏～極めて北偏（北緯40°30'以北）で推移する。
- ・ 近海の黒潮系暖水の北限は極めて北偏（北緯40°50'以北）で推移する。

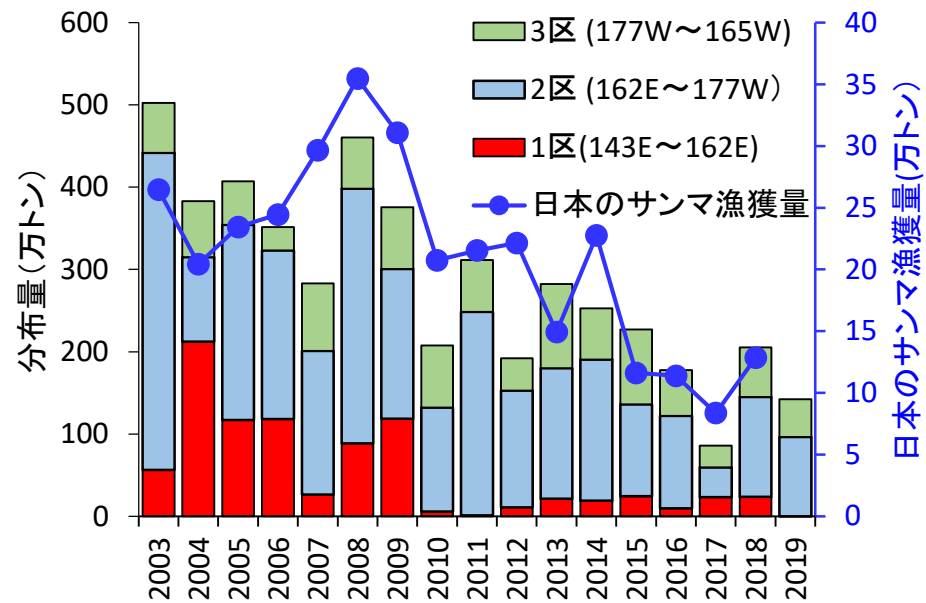
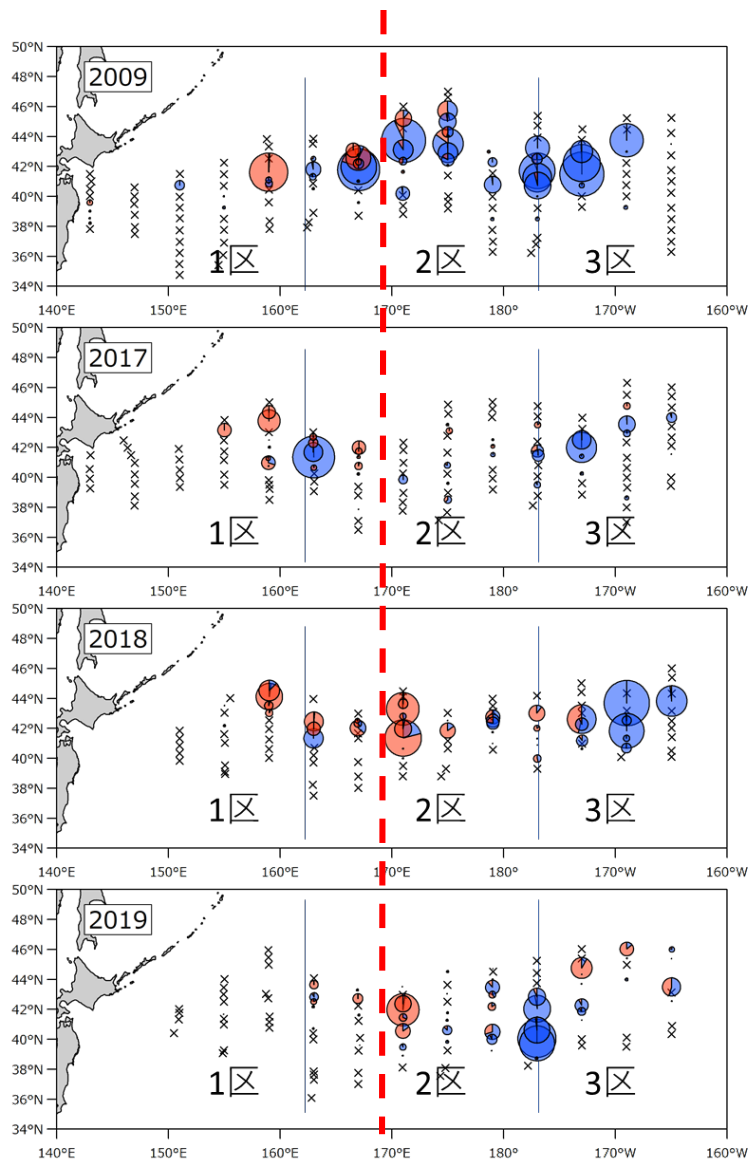


例年漁期前半に来遊する魚群

9月下旬以降に来遊する魚群。

令和元年6～7月に行った表層トロール漁獲試験によるサンマ資源量直接推定調査の結果  
円の面積は漁獲されたサンマの尾数、赤は1歳魚、青は0歳魚、×は漁獲のなかった調査点を示す。  
緑の矢印は漁期前半に、ピンクの矢印は漁期後半に来遊する魚群の想定経路を示す。

# 6～7月のサンマの分布と来遊量

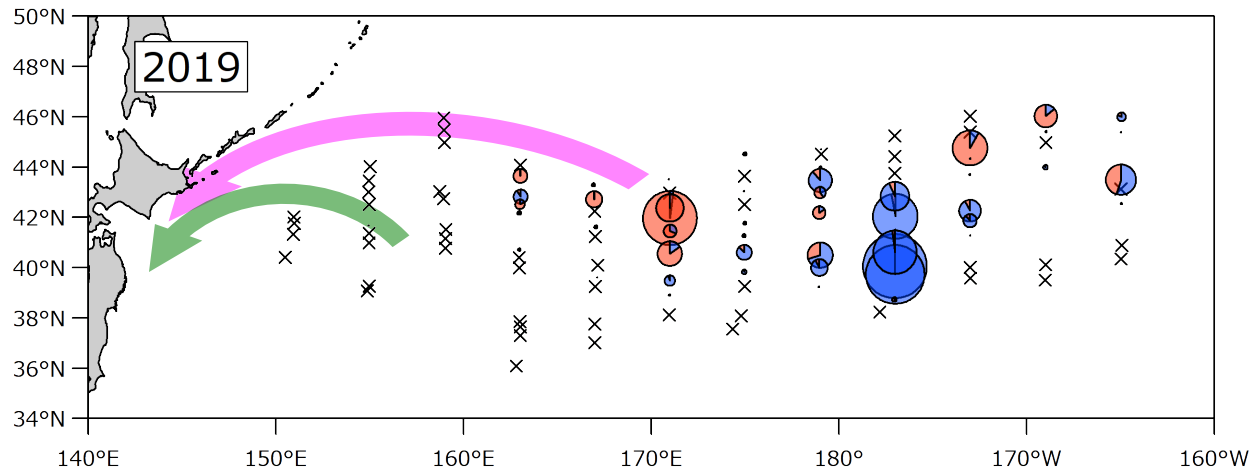


- 推定資源量は2017年に次ぐ低水準

漁期を通じた来遊量は昨年を下回る

- 例年に比べて分布は東偏

# 分布と季節ごとの来遊量



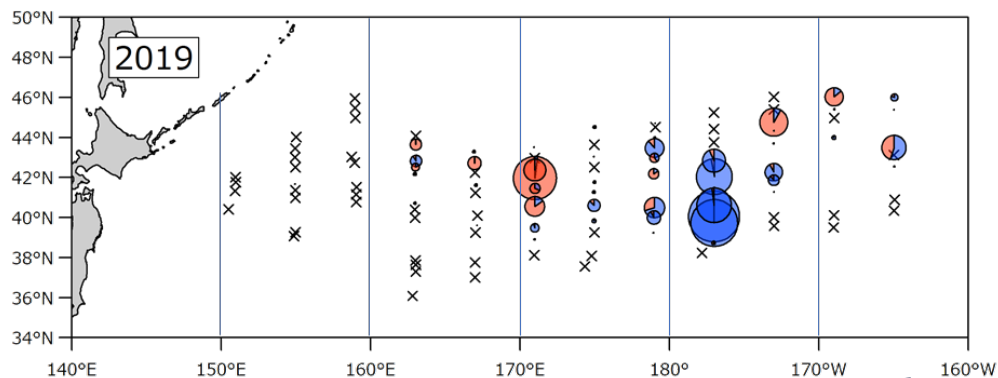
例年漁期前半に来遊する魚群

9月下旬以降に来遊する魚群

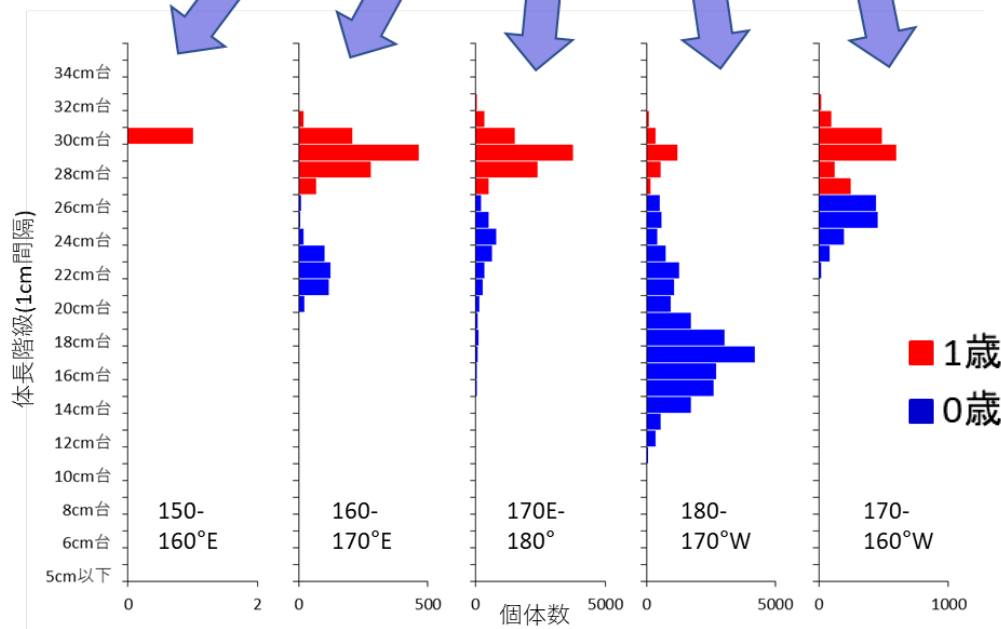
- 分布域の西側の群から順に漁場へ来遊

9月中旬までの来遊量はきわめて低調に推移するが、9月下旬以降に増加する

# 海域ごとの体長組成



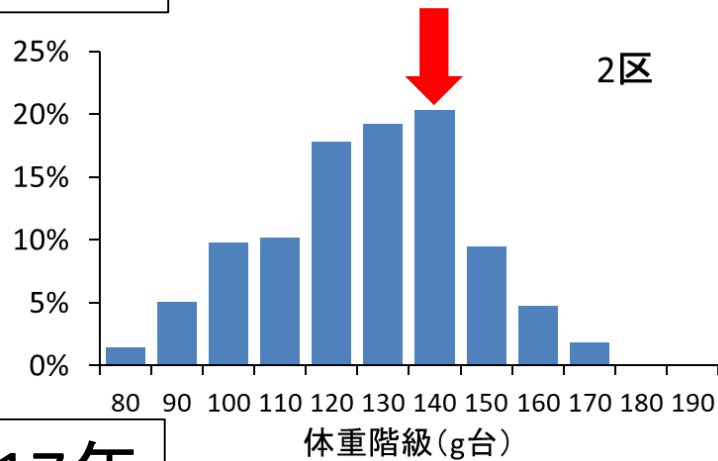
- 1区と2区(今年の主な漁獲対象)における1歳魚の割合は27.1%で、前年(79.4%)を下回った。



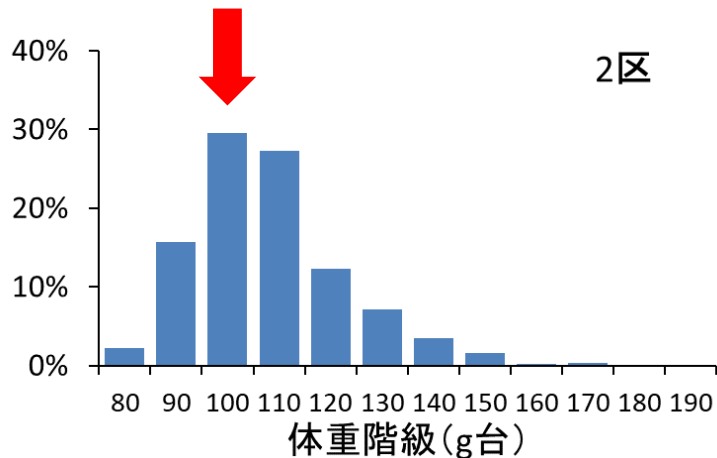
漁期を通じて昨年より1歳魚の割合が低い

# 1歳魚の体重組成

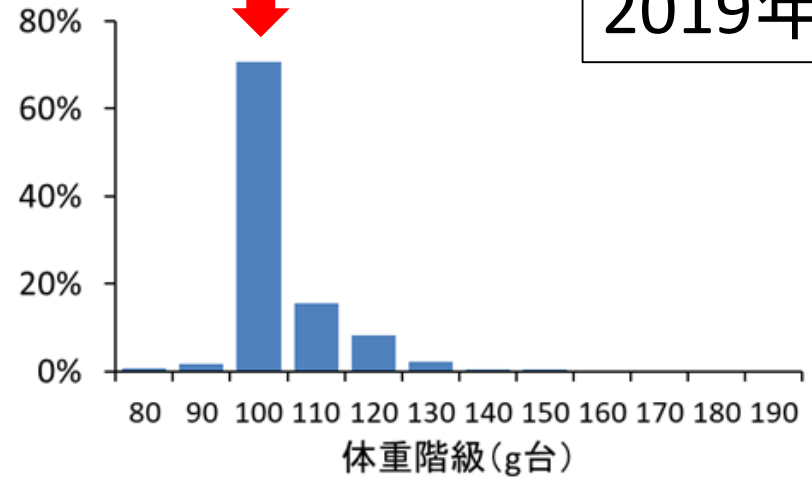
2018年



2017年



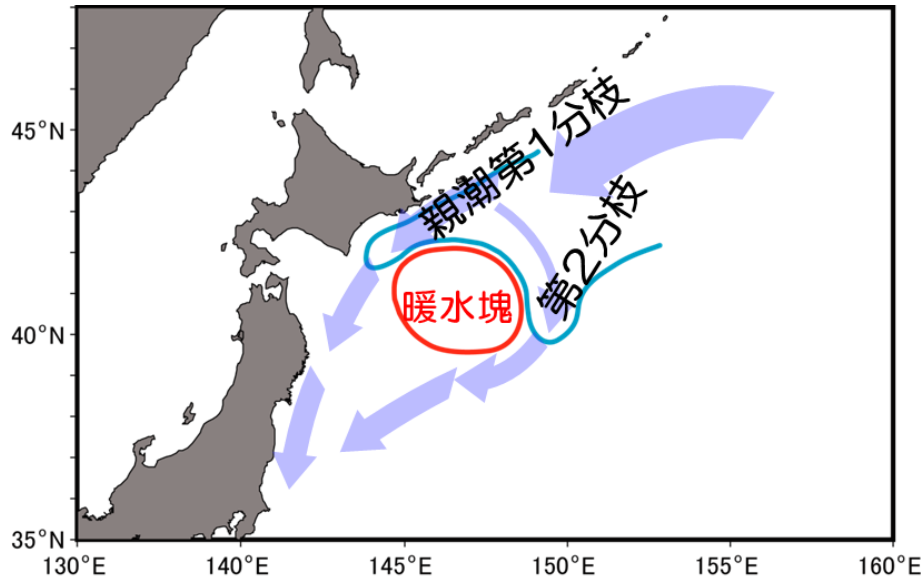
2019年



- 今年は100g台が中心(2017年並み)

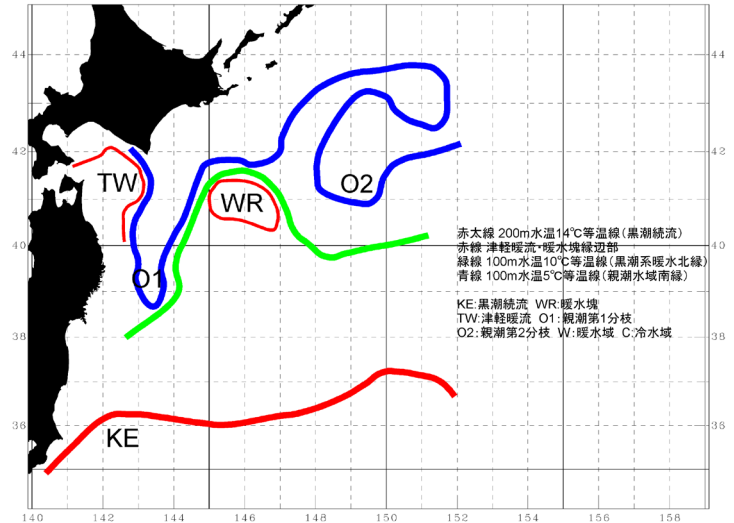
1歳魚の平均体重は昨年を下回る

# サンマの来遊量と漁場の関係

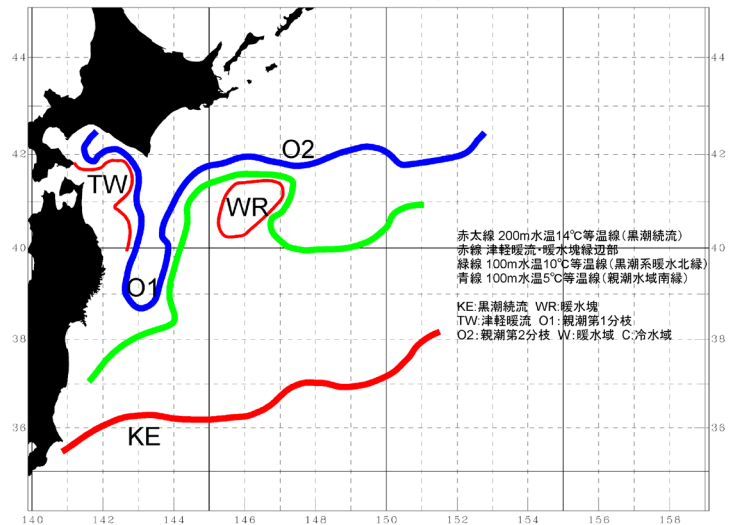


- サンマは親潮に沿って南下
- 海況予報では道東沿岸沿いに第一分枝が差し込む予想
- しかし近年はこの条件下でもサンマが日本近海に来遊せず沖を南下

Cor. TEMP. AT 100m DATE: 2019/0811 - 2019/0820

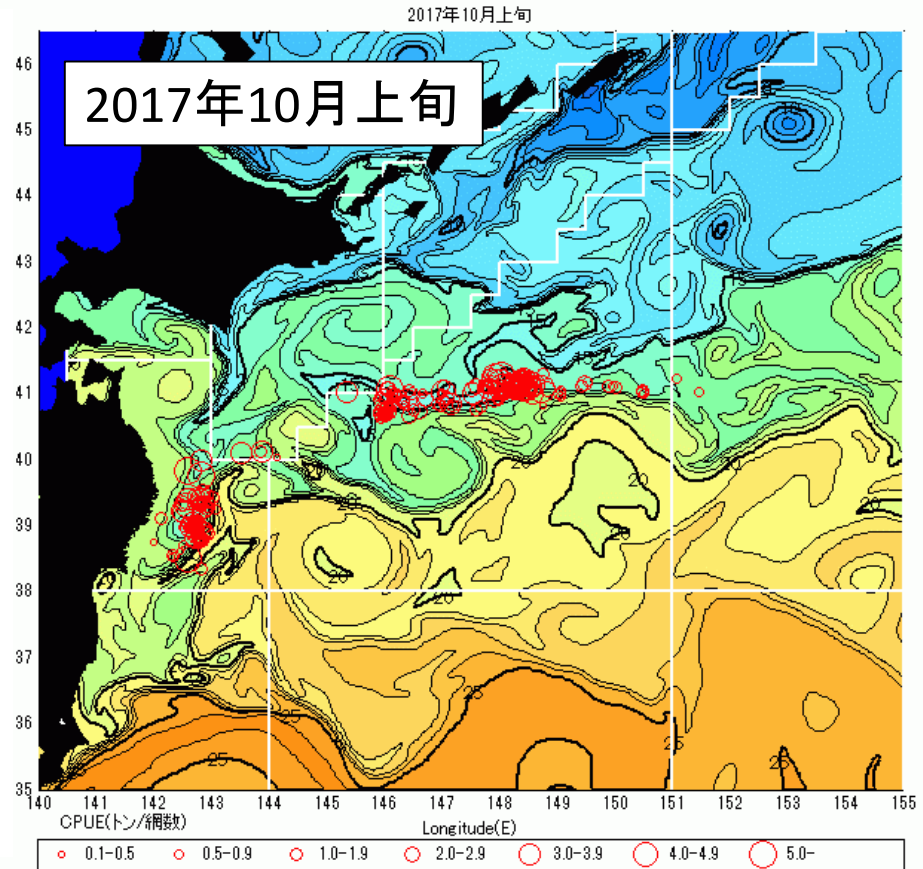
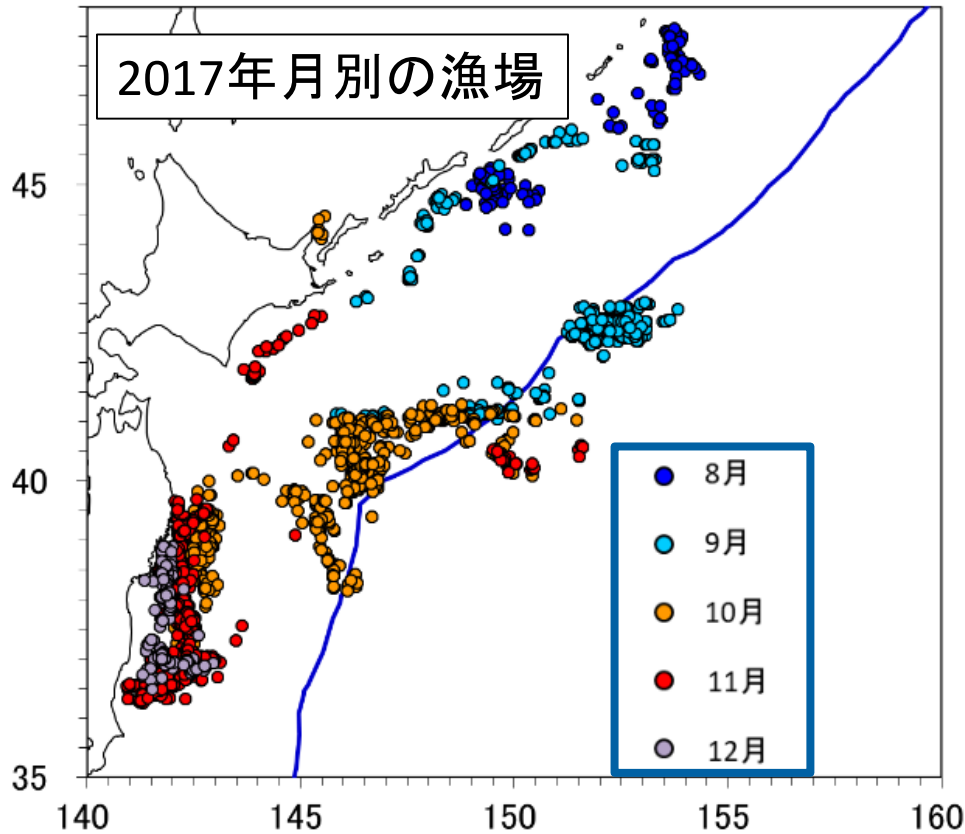


Cor. TEMP. AT 100m DATE: 2019/0911 - 2019/0914



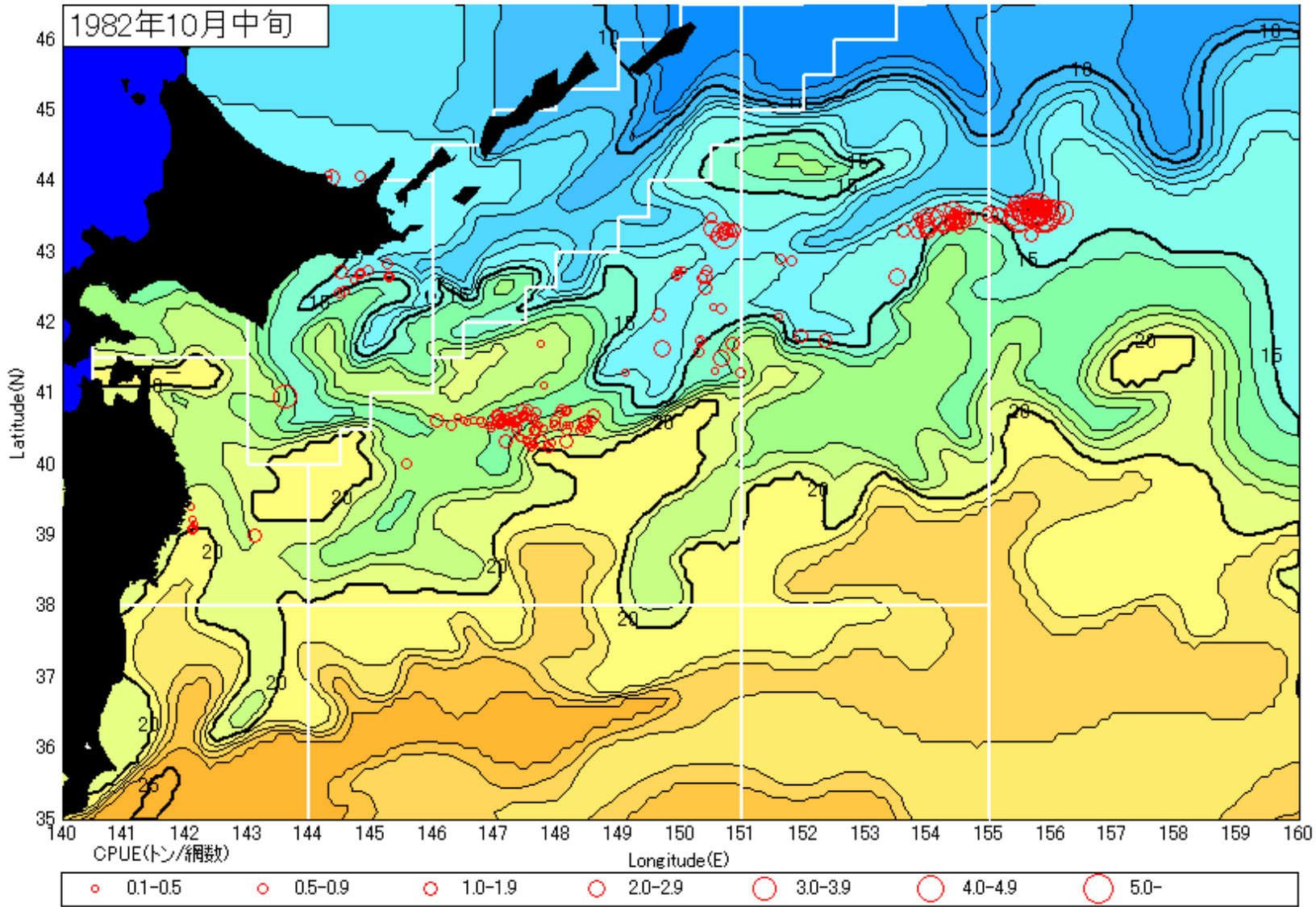
2019年度 第3回 東北海区海況予報

# 2017年のサンマ漁場



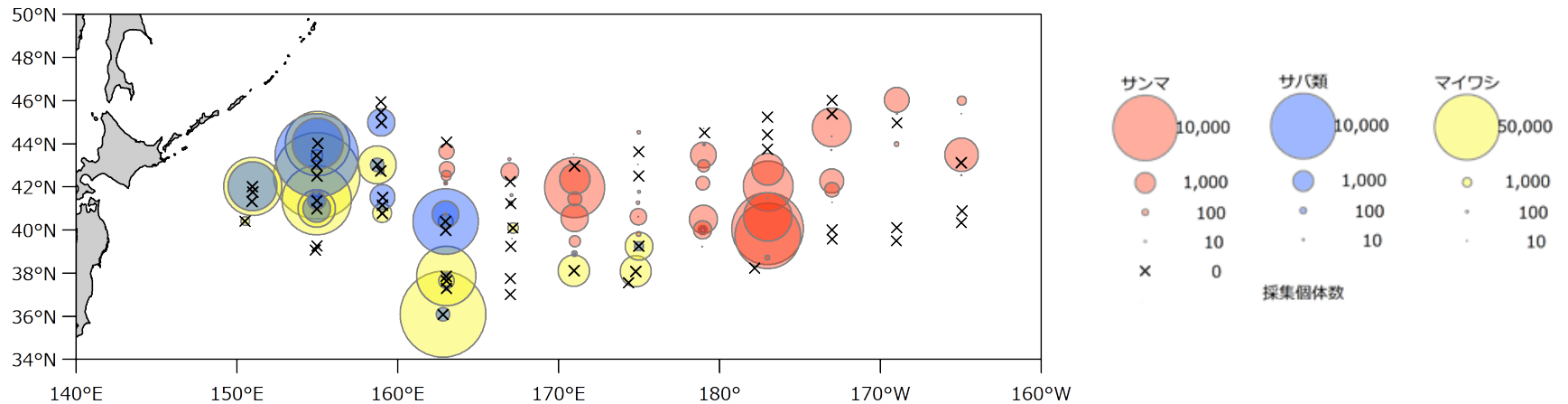
- 親潮第1分枝が発達
- 親潮第1分枝沿いに南下した魚群は少なかった

# マイワシが多かったころのサンマ漁場(1982年10月)



- 過去にも同じような現象

# サンマと他魚種の関係



- サンマと他魚種が同所的に分布することはまれ
- 今年も日本近海(165E以西)はサバ類・マイワシが席卷
- 道東沿岸沿いに来遊しづらい状況であり、魚群は沖合を南下
- 初期漁場は近年と同様に択捉島以北に散発的に形成
- 三陸海域への南下は遅れ、10月下旬ごろ

# 2019年のサンマ予報のまとめ

---

- 来遊量は昨年を下回る。
- 漁場への魚群の来遊量が増加するのは9月下旬以降で、主漁場は親潮第2分枝沿いとなる。
- 1歳魚の割合は昨年よりも低く、1歳魚の平均体重も昨年を下回る。